

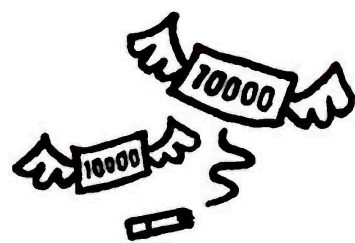
自動車保険の一つに「リスク細分型保険」があります。事故の危険性に応じて保険料を定めている保険で、ドライバーの事故歴や車の種類などをリスクに応じて区分し、リスクの少ない契約者の保険料は安くするというものです。

生命保険でも、個人のリスクによって保険料率(掛け金)を変える商品があります。最近では、喫煙の有無などで保険料率を変えるタイプのものも増えてきました。

喫煙は発がん原因のトップで、男性のがんの3割、女性でも5%がたばこによって発生すると考えられます。たばこのパッケージにある警告文のうち、がんに関連するものは、「喫煙は、あなたにとっ

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

喫煙、ほとんどの臓器むしばむ

つています。喫煙の経済損失は医療費を含めて年間2兆円を超えます。

保険商品によっては、たばこを吸わず、血圧や肥満度が優良とされる人では、掛け金が3割も安くなる場合があります。「非喫煙者料率」が設定されている場合、過去1年あるいは2年間たばこを吸っていないければ、通常より低い

ます。

では、最近急速に普及している「アイコス」などの加熱式たばこに切り替えたなら「ノンズモーカー料率」が適用されるのでしょうか？

答えはノーです。加熱式たばこでも、従来のたばこほぼ同じ量のニコチンが含まれるからです。ニコチンは葉を昆虫に食べられないようにタバコ植物が作り出した毒物で、ヘロインやコカインなどの依存性を持ちます。加熱式たばこを吸うかぎり、高くなる一方のたばこ代を支払い続けることになるのです。

喫煙は健康だけでなく、経済面でも大きなマイナスとなるのです。

(東京大学病院准教授)

て肺がんの原因の一つとなります」というものですが、ほとんどの臓器のがんをたばこは増やします。

喫煙はがんだけでなく、脳卒中や心臓病の原因にもなり

ます。国内で喫煙に関連する病気で亡くなる人は年間で12万~13万人といわれます。20歳よりも前にたばこを吸い始めると、男性は8年、女性は10年も短命になることも分か

掛け金が適用されます。割引制度がある生命保険に加入するには、たばこを吸っていないことを確認するため、ニコチンを検出する「唾液検査」を受ける必要があります。